

参加無料

ご参加のお申込みは
電話、FAX、メール、
またはQRコード
からお願いします。



衆議院議員 千葉8区(柏市・我孫子市)選出

本庄さとし

役職 (党務)副幹事長、政調会長補佐、千葉県連副代表
(国会)衆議院予算委員会、内閣委員会、憲法審査会 委員



柏会場 先着150名

日時 2023年 2月23日 木祝

14:30 ~

場所 アミュゼ柏
「プラザ」
柏市柏6-2-22



昨年の国政報告会は満員御礼!

我孫子会場 先着100名

日時 2023年 2月26日 日

10:30 ~

場所 あびこ市民プラザ
「ホール」
我孫子市我孫子4-11-1
あびこショッピングプラザ3F



特別ゲスト
前衆議院議員
みやかわ伸



向き合う政治。



立憲民主



国会で、お会いしませんか?

本庄さとし事務所では、常時、国会見学を受けています。国会開会中であれば、本会議や委員会の傍聴も可能です。

- ご家族やご友人と国会に遊びに行きたい...という方
- 「本庄さとし」に会ってみたい...という方
- 政治に興味を持つ第一歩として などなど

国会議事堂で購入できるお土産も品ぞろえが豊富です。お土産選びも国会見学の楽しみの1つです。ぜひ、お気軽にお問合せ、お申込みください。お待ちしております!

お問合せ 04-7170-2680 info@honjosatoshi.jp

さとしのつぶやき 「選手交代」

昨年、私にとって一番辛かったことは、一票の格差是正のための区割り変更です。法改正により、我孫子市が私の選挙区(千葉8区)から13区に移り、次の衆院選では、立憲民主党は私から宮川伸さんに「選手交代」となります。3年前、本当にゼロからのスタートでしたが、我孫子の皆さまには熱烈に応援していただきました。まさに身をまがれる思いです。

実は、もう一つ「選手交代」がありました。地元の車です。活動開始から間もなく、ある我孫子の支援者の方から、免許返納で乗らなくなった車を譲り受けました。私のイメージカラーでもある「オレンジカー」の愛称で、ほぼ毎日使ってきましたが、十数年の「ベテラン選手」で、昨秋に現役引退となりました。

私の初当選までの道のりをずっと支えてくれた「相棒」には、今もただ感謝しかありません。ありがとう。



昨年11月の国会で、テレビ中継の予算委員会、本会議での登壇はじめて十数回の質問に立ち、また、副幹事長として、岡田克也幹事長を支えて党務にあたるなど、大きな収穫の年となりました。「新たな挑戦の年」として、さらなる飛躍を遂げられるよう、今年も全力投球で臨みます。

さて、昨年末の国会閉会後に政府・与党だけで決めた「防衛増税」、過去最大一・四兆円の超バラマキ予算、ドサクサまぎれの四人目の大臣辞任など、岸田政権の混乱は目を覆うばかりです。そういう中での通常国会、一五〇日間の与野党攻防のスタートとなります。

私も引き続き、予算委員会など国会の最前線で、岸田総理や大臣にガチンコの論戦を挑みます。物価高騰や伸びない賃金に苦しむ暮らしと経済、「反撃能力」保有など安全保障政策の大転換、歯止めのかからない少子化・人口減少、なし崩しの「原発復権」など、国の命運を左右する重要課題に、今こそ正面から取り組むときです。

昨年の参院選に続き、今年もまた「選挙イヤ」です。

四月の千葉県議選を皮切りに、八月に柏市、十一月に我孫子市で市議選が予定されています。しっかりと候補者を擁立し、政策を訴えます。衆院補選も四月に行われます。特に千葉五区は、四千万円以上の「裏金」で辞職した自民党議員の補欠選挙です。絶対に負けられません。

岸田総理が今年、解散・総選挙に踏み切る可能性も十分にあります。

国会、補選、地方選と連動しながら、二回目の衆院選に向けて、「常在戦場」の覚悟で準備を進めて参ります。引き続き、皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

衆議院議員 本庄さとし

ご支援・ご協力をお願い

- 1 ポスター掲示
- 2 友人・知人のご紹介
- 3 ご寄付
- 4 ポスティング、ビラ配り
- 5 事務所での軽作業 など

本庄さとしプロフィール

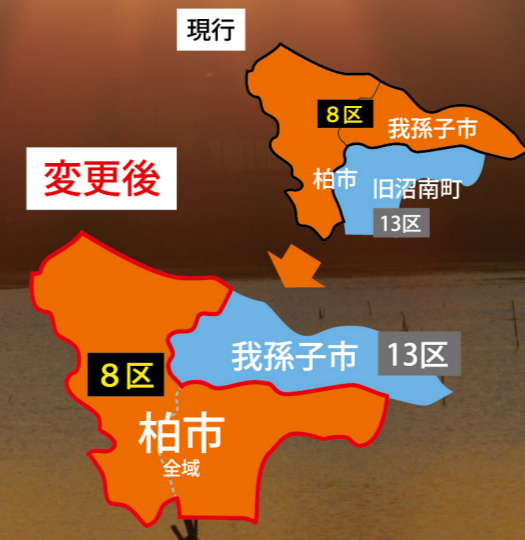
- ・ 1974(昭和49)年10月22日生まれ
- ・ 東京大学法学部卒(体育会テニス部・北岡伸一ゼミOB)
- ・ 衆議院議員岡田克也事務所(19年間勤務)
政策担当秘書、外務大臣秘書官、副総理秘書官を務める
- ・ 党公募を経て、2021年衆院選で初当選(13万5,125票)
- ・ 家族/妻、息子(中1)、娘(小5)
- ・ 好きな食べ物/冷奴、そば、昆布締め、漬物、コーヒー
- ・ 息抜き/テニス、子どもたちと過ごす時間、妻との晩酌
- ・ 好きな言葉/意志あるところに道は開ける
- ・ 政治を志したきっかけ/10代で目の当たりにした消費税導入と湾岸戦争



「区割り変更」(全国で10増10減、千葉は1増)



前衆議院議員
みやかわ伸
 ■ 党千葉13区総支部長
 ■ デモクラッツCHIBA代表
 ■ 元パイオベンチャー経営
 ■ 1970年生まれ
 ■ 大学生2人の父



昨年11月、一票の格差是正のため、衆院小選挙区を「10増10減」する改正公職選挙法が成立。12月末に施行され、次の衆院選から適用されます。過去最多となる140選挙区の区割りを変更するもので、千葉県は「1増」となります。

千葉8区も区割りが変わります。旧沼南町を含む「柏市全域」が新8区となり、残念ながら、我孫子市は新13区に移ります。

ただ、今の任期中は、唯一の地元選出の衆院議員として、しっかりと仕事をして参ります。13区総支部長の「みやかわ伸」前衆議院議員ともども、よろしく願い申し上げます。

本庄さとし事務所(地元)
〒277-0863
柏市豊四季949-9 ジュンカ南柏101
☎04-7170-2680 ☎04-7170-2681

国会事務所
〒100-8982
千代田区永田町2-1-2 衆議院第二議員会館1219号室
☎03-3508-7519 ☎03-3508-3949

ご意見・ご要望は
☎ info@honjosatoshi.jp
公式ウェブサイト
honjosatoshi.jp



11/25 予算委員会

昨年11月の予算委員会デビュー戦、「2次補正予算案」の審議で岸田総理と初対決。30分間、激論を交わしました。財政民主主義、予算単年度主義など、国の財政に対する私と総理の基本的な考えの違いが浮き彫りになりました。

今回の補正予算案は、29兆円という「規模」だけではなく、「中身」も問題です。予備費4.7兆円の「見せ金」と基金8.9兆円の「つかみ金」で予算額を膨らませ、しかも財源のほとんどは新たな借金23兆円。まさに「バラマキ予算」の極みです。立憲民主党は維新の会と共同で、不要不急の予備費と基金を削除し、**子ども・子育て、教育など、緊急に必要な“未来につながる”コンパクトな予算への組み替えを提案しました。**

国会 閣論

「本庄さとし」VS「岸田総理」

1 一夜にして4兆円の増額

本庄さとし 今回の補正予算は、一夜にして4兆円も増額され、29兆円となった。その政策決定について「答弁を控える」ことは認められない。公文書管理法でも、閣議の決定や経緯は文書の作成が義務付けられている。

岸田総理 経緯は、与党における様々な議論の積み重ねの結果だ。

鈴木財務大臣 意思決定等に影響が出るため、具体的な内容は、情報公開法令の観点から慎重な判断が必要だ。

本庄さとし 政府の中で、官邸や財務省で、様々な議論があったらう。公的な場での議論を明らかにできないとなれば、公文書の意味が一切なくなってしまう。予算委員会への文書の提出を求める。

2 予備費4.7兆円の「見せ金」



本庄さとし 予備費4.7兆円は「見せ金」以外の何物でもない。「コロナ・原油・物価予備費」に加え、今回は「ウクライナ予備費」まで。今年度も残り4か月、なぜ今、こんなにも巨額の予備費が必要なのか？

岸田総理 要は危機感の問題だ。これから先の経済を考え、国民生活を守るべく、政府として備えなければならない。

本庄さとし 危機感はあるが、あまりに過大だ。ただお金を積み上げ、大きな予算を組んだから安心くださいと言っているに過ぎない。

3 50基金8.9兆円の「つかみ金」

本庄さとし 昨年12月の補正予算でも、経産省が計上した基金1.9兆円のうち、年度内に支出したのは1200億円(6.2%)のみ。補正で急ぐ必要はなかった。今回の8.9兆円も同じことではないか？

岸田総理 まさにこれから日本の経済を本格的に成長させるために重要だ。初年度で実際に発動されないとしても、大きな方向性を示すという意味で、大変意味がある。



本庄さとし 基金が必要ないとまでは言っていない。「緊急に必要」とされる補正予算で、巨額の基金を積むことに問題がある。まさに「つかみ金」だ。

4 保険証廃止

本庄さとし 6月の骨太方針では、保険証は「原則廃止」するが、「加入者が申請すれば交付される」となっていた。当時の厚労大臣も「従来の保険証は保障する」と答弁。しかし、そのわずか4か月後、河野大臣が突然「2年後の完全廃止」を発表。政府内でどんな議論があり、「完全廃止」を決めたのか？

河野デジタル大臣 関係閣僚の協議を経て、保険証とマイナンバーカードの一体化のメリットを早期に発現するために、2024年秋に保険証を廃止することを決めた。

本庄さとし 一体化のメリットと、従来の保険証を廃止することは、次元が全く異なる話だ。事実上、マイナ保険証を義務付ける政府の今の進め方は、大いに問題がある。

国会質疑の様子は、ホームページよりご覧ください



地元(柏・我孫子)で「向き合う政治」を実行中!



地域の公園で「あおぞらトーク」(春・秋に75回)



毎朝の駅立ち(年165回)



戸別訪問、ポスター貼り



各地でミニ集会



柏体育大会「開会式」



近隣センターでのミニトーク(12月、1月に20回)



中央学院大で学生さんに講義



市民の皆さんと憲法論議



各地域の「文化祭」回り



柏市長との政策懇談



千葉北西連絡道路「シンポ」



山形県人会の「芋煮会」

時事直言 安全保障政策 — 国民に見える形で徹底論議を

岸田政権は昨年末、安全保障3文書や「防衛増税」など、戦後の安全保障政策を大きく転換させる閣議決定を行いました。

今の日本を取り巻く安全保障環境が非常に厳しさを増しているとの現状認識は、私も共有しています。また、防衛力強化や防衛費増額の必要性も一定の理解はできます。

しかし、今回の閣議決定には、以下のような大きな問題があると考えています。

第1に、今回の閣議決定は、国会閉会後に政府・与党のみで決めたものです。国会審議はもちろん、野党の意見も聞いていません。日本の国益を考えれば、外交・安全保障は与野党を超えて、国民も巻き込んだ丁寧な議論と手続きが必要不可欠です。

第2に、現在の防衛費が不十分で、増額の必要があるとしても、「倍増」「GDP比2%」といった「金額ありき」ではありません。必要性や合理性を十分に精査する

必要があります。

また、必要な予算は防衛費だけではなく、子ども・子育て、教育、社会保障、科学技術など山積しています。防衛費の増額を先行して決めたことは、大きな間違いです。

しかも、今回の財源である復興特別所得税は、言うまでもなく、被災地復興のための財源です。法人税の増税も、賃上げやスキルアップなど労働者にも還元されるべきものです。

第3に、日本のミサイル能力の向上や抑止力の強化が必要であるとしても、政府・与党のいう「反撃能力」は、日本が攻撃される前のミサイル攻撃や、集団的自衛権行使としてのミサイル攻撃も認めています。「専守防衛」や「必要最小限度」など、憲法が認める自衛権行使の範囲を大きく逸脱するおそれがあります。

これらの問題について、今国会、国民に見える形で徹底論議が必要です。